

## 講義レジュメ

講	師	水谷 修
期	日	2019年5月24日

内容・テーマ

パネルディスカッション

生涯学習センター等における地域課題解決に資する取組

## 1 ねらい

生涯学習センター等が地域の学びの拠点としてその役割を担うためには、どのような取組が必要となるのかについて、事例発表を聞くことで理解するとともに実践に役立つ唆を得る。

## 2 展開

## (1) 事例発表を聞くポイントについて (コーディネーター 水谷修)

中央教育審議会答申「生涯学習の基盤整備について」において、多様な機能を備えた「総合型」の生涯学習センターの設置が提唱された1990年当時と比べ、生涯学習センターを取り巻く環境が変化したことなどから、今日では機能を重点化し「専門型」をめざすセンターも多い。また、その機能、例えば多くのセンターが従来から担ってきた学習機会の提供についても、地域の課題に対応した新たな学びのための取組が模索され実践されるようになってきた。学習成果の評価・活用についても、学びと活動の循環を推進する上でこれまで以上にこの機能が重要視されるようになってきている。このような地域の課題に対応した新たな学びや学びと活動の循環は、言うまでもなく一施設の取組で実現できるわけではなく、施設・機関間の連携・協力が不可欠であり、生涯学習センターが他の施設・機関等と連携したり、地域の施設機関間の連携を促進するよう期待される。

その1つが、生涯学習推進の機能を備えた大学のセンターと自治体の生涯学習センターの連携・協力である。大学は、2006年の教育基本法の改正で、研究成果や人材を社会に役立てる社会貢献が大学の使命とされたこともあり、地域の課題への対応にも組織的にかかわる状況が生じている。このような中で、地域の実情に応じ、地域の課題解決に取り組み、講座を開設したり学習プログラムの開発を行うなど、地域との密接な連携を図ることが期待されている大学のセンターと、自治体の生涯学習センター等とはどのような連携・協力が可能なのだろうか。

これらのポイントを含め、3つの事例から、地域の学びの拠点としての生涯学習センターに期待される実践について検討するための手がかりを得たいと思う。

## (2) 事例発表「生涯学習センター等における地域課題解決に資する取組」

3つの生涯学習センター等から、生涯学習センター等の運営・取組等の現状、成果、課題さらには今後の方向性などについて紹介していただく。

## ①防災学習プログラム『OSAKA防災タイムアタック!』の開発と活用

(大阪市立総合生涯学習センター 竹内愛実氏)

市内に3館ある生涯学習センター設立の経緯と現状、また防災学習プログラム開発と防災教育への取組の経緯、また大学との連携、成果と課題、今後の方向性などについて

## ②3がつ11にちをわすれないためにセンター (せんだいメディアテーク 甲斐賢治氏)

せんだいメディアテークの特徴および「3がつ11にちをわすれないためにセンター」の開発の経緯と現状、「震災の記録・市民協働アーカイブ」として整理・保存・活用する事業の成果と課題、今後の方向性、地域文化における生涯学習の機会づくり、デザインの一例について

## ③島根県立大学の地域連携における取組 (島根県立大学 河部安男氏)

県内3カ所のキャンパスの特徴と地域連携の経緯と現状、他機関との連携体制、「地域と大学の共育・共創・共生に向けた縁結びプラットフォーム」事業などの地域課題解決への取組、成果と課題、今後の方向性などについて

## (3) 総括 (水谷修)

事例を通して見出された、生涯学習センター等が地域の学びの拠点としてその役割を担うために必要な改善のポイントや取組などについて

## (4) 受講者へのメッセージ (照井康郎氏、加藤浩司氏、河部安男氏)

## [参考文献]

- 国立教育政策研究所社会教育実践研究センター 生涯学習推進センター等の新たな役割に関する調査研究報告 平成22年3月
- 生涯学習分科会企画部会 意見のまとめ 平成28年12月